

(2) 区のまちづくり目標

ア 区のまちづくり目標総括シート

区ごとに、

「取組みの方向性」

「区の人口・世帯動向」

を示すとともに、「取組みの方向性」に掲げる目標の実現に向けた

「現状と課題」

「今後の取組みの方向性」

をまとめるもの。

※「今後の取組みの方向性」には検討段階のものが含まれる。

※7区で共通する課題など全市的課題については、分野別目標の51施策の「施策評価」で整理されているため、「区のまちづくりの目標」では、区ごとの特性や独自の取組みに関する課題に絞ってまとめている。

イ その他

平成30年度を「H30n」、平成30年を「H30」等と表記している。

歴史と自然の魅力にあふれ、人が活躍し、活力を創造するまち・東区 ～住みやすいあんしんなまちづくりをめざして～

取組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○安全で安心して暮らせるまち ○子どもが健やかに育つまち ○人を大切にし、みんながいいきいと活躍できるまち ○新しい都市機能を担い、活力を創り出すまち ○歴史・文化、自然の魅力を生かし、新しい可能性を生み出すまち
---------	--

区の人口・世帯動向

		年少人口 (0～14歳)	生産年齢人口 (15～64歳)	老年人口 (65歳以上)	総数
H12	東区	40,553 (15.2%)	192,002 (71.9%)	34,448 (12.9%)	269,307
H17		38,850 (14.3%)	190,269 (70.2%)	42,065 (15.5%)	274,481
H22		41,272 (14.3%)	197,419 (68.4%)	50,090 (17.3%)	292,199
H27		43,380 (14.3%)	196,831 (65.1%)	62,089 (20.5%)	306,015
H30		44,393 (14.2%)	198,958 (63.8%)	68,462 (22.0%)	315,525
全市		203,297 (13.1%)	1,004,726 (64.8%)	341,446 (22.0%)	1,579,450
		高齢者単独世帯数	単独世帯数	全世帯	
H12	東区	6,124 (5.4%)	46,878 (41.0%)	114,366	*H30人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 (資料：国勢調査、福岡県人口移動調査)
H17		8,125 (6.9%)	47,262 (40.1%)	117,887	
H22		10,653 (8.0%)	56,811 (42.7%)	133,024	
H27		13,590 (9.6%)	61,734 (43.6%)	141,506	
全市		80,032 (10.5%)	379,499 (49.7%)	763,824	

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

安全で安心して暮らせるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災については、避難訓練、土のうの計画的な整備を継続し、様々な災害に備えた地域の避難体制を構築する必要がある。災害時避難行動要支援者については、H29nから避難行動要支援者名簿を各校区の自治協議会、校区社会福祉協議会、民生委員・児童委員へ配布しており、名簿を活用した日頃の見守り活動や安否確認訓練等が円滑に実施されるよう、3者が連携した体制づくりが必要である。 ・地域防犯については、地域の安全・安心マップの継続的な更新、H30nに発生した連続不審火事案や多発しているニセ電話詐欺への対策として、警察、消防及び地域と連携した市民啓発等の取組みを引き続き推進する必要がある。交通安全や飲酒運転撲滅運動は、飲酒運転による交通事故発生件数がH30は11件（前年比+4件）と増加しており、引き続き取組みが必要である。 ・セアカゴケグモの個体数は、近年減少傾向にあったが、再び増加に転じ、出現場所は広範囲に拡大している。引き続きセアカゴケグモ等の定期的な調査・駆除及び市民への啓発に取り組む必要がある。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡市地域防災計画の見直しや避難行動要支援者名簿の配布を踏まえ、様々な災害発生時における高齢者や障がい者等に対する避難支援体制の構築や地域住民同士が助け合う仕組みづくりを支援する他、安全で快適な生活環境維持のための取組みを推進する。 ・地域における防犯活動を支援するとともに、飲酒運転撲滅運動等を地域と連携して推進する。また、放置自転車対策やごみの不適正排出の監視等モラル・マナーの向上にも取り組む。 ・交通ネットワーク整備や、歩行者や自転車利用者の安全を確保する環境整備を推進する。 ・セアカゴケグモについては、市民からの相談対応を実施するとともに、学校や地域における出前講座等による啓発を積極的に行う他、市管理地における定期的な調査・駆除に引き続き取り組む。

子どもが健やかに育つまち	
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待ハイリスク家庭への対応について、家庭問題の複雑・多様化がみられるため、よりきめ細やかな対応が必要である。 ・子育てに不安のある保護者に対し、育児相談や家庭訪問・母子巡回健康相談等を行った。また、地域子育て支援会議を校区毎に実施し、地域の子育てネットワークづくりや、子育て交流サロン・育児サークルの支援を行うとともに、子育て教室や子どもプラザ等において子育て支援の取組みを行った。今後も子育て家庭が孤立しないよう、地域・行政でともに見守り支える取組みを推進していく必要がある。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・「要保護児童支援地域協議会」の構成団体と密に連携して、ハイリスク家庭への支援、児童虐待の予防・早期発見・再発防止に向けて取り組む。 ・「東区子ども・子育てセーフティネットワーク」により、学校のスクールソーシャルワーカー、産婦人科、小児科、子ども食堂等と情報共有・連携を図り、より一層の児童虐待防止、子育て支援に取り組む。 ・妊娠期から切れ目なく支援できるよう、ライフステージに応じた関係機関との連携や、育児サークル、子育て交流サロン等での支援を行う。また、子どもが安心して遊べる環境づくりやスポーツ等の体験ができる機会を提供する。

人を大切にし、みんながいきいきと活躍できるまち	
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティの活性化のため、自治協議会等の研修会、市民提案事業等への支援及び大学と連携し地域の課題等を調査・研究する事業等を行った。 ・地域活動に参加しない住民が多く、地域づくりの担い手が不足するとともに、固定化している中、地域の絆づくりがより一層必要となっている。 ・東区における外国人の人口は約 10,000 人と 7 区で最も多く、外国人居住者に対するサポート等「ユニバーサル都市・福岡」の実現を目指した取組みを推進する必要がある。 ・地域包括ケアシステムの推進のため、医療・介護・地域のネットワーク推進ブロック会議等を実施した。地域包括ケアシステムを次のステップに進めるには、市民への啓発や医療・介護・地域のより有機的な連携を強化する必要がある。また、認知症の人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、認知症に関する理解等地域の支援が必要である。 ・生涯にわたり元気で自立した生活を営むことができるよう、健康寿命を伸ばす取組みを推進する必要がある。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・自治協議会等の地域活動や地域の担い手づくりを支援するとともに、企業、NPO、大学等様々な主体と、地域の未来を共に創る「共創」のまちづくりを推進する。 ・外国人と地域住民が共に暮らしやすい環境づくりに向け、情報発信の強化及び地域住民との交流促進等に取り組む。また、誰もが思いやりを持ち、みんながやさしい、みんなにやさしいユニバーサルデザインの理念に基づいたまちづくりを推進するため、外国人や障がい者等への支援充実を図る。 ・高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域包括ケアシステム東区スタイルのさらなる充実を図る等地域で支え合う取組みへの支援を行う。また、「認知症フレンドリーシティ・プロジェクト」を推進するため、本人や家族の見守りや居場所づくり、認知症の早期発見・早期対応の体制づくりに取り組む。 ・健康寿命を伸ばすため、地域・各種機関・行政等が連携して、特定健診・特定保健指導の受診率向上に取り組むとともに、介護予防等の健康づくり活動を日常的に取り組む自主グループを更に増やす。

新しい都市機能を担い、活力を創り出すまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・香椎駅周辺土地区画整理事業（R2n 完了予定）が進む香椎駅周辺において、市民、地域、NPO、企業、行政で構成する「香椎賑わいづくりの会」を中心に、様々なイベント等を実施した。今後も限界性を活かした香椎駅周辺のまちづくりを地域等と共働で推進する必要がある。 ・九州大学箱崎キャンパス跡地等においても、地域、大学、NPO、企業、行政が連携してまちづくりを推進する必要がある。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・土地区画整理事業が進む香椎駅周辺は、市民、地域、NPO、企業、行政等が連携を図りながら、賑わいのあるまちづくりを推進する。 ・九州大学箱崎キャンパス跡地は、地域、大学、NPO、企業、行政が連携してまちづくりを推進する。

歴史・文化、自然の魅力を生かし、新しい可能性を生み出すまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「志賀島活性化構想 2015」の推進のためには、引き続き地域への支援が必要である。また、志賀島等東区の魅力を発信するため、SNS 等を活用した情報発信の充実を図る必要がある。 ・立花山・三日月山については、登山人口の増加から登山道の保全や登山情報発信等のニーズが高まっており、引き続き登山道の保全・整備や市民への情報発信が必要である。 ・芸術文化を感じられるまちづくりのため、「第 2 回なみき芸術文化祭」を開催しており、今後もなみきスクエアを核とした、芸術文化活動を推進する必要がある。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・東区のシンボルとなる行事や歴史・文化的な資源、水辺や緑等の自然環境、志賀島や立花山・三日月山等の地域の魅力・特色を生かしたまちづくりへの支援や情報発信に引き続き取り組む。 ・「なみき芸術文化祭」の開催等なみきスクエアを核として、にぎわいにあふれ、多くの人が交流し、芸術文化を感じられるまちづくりを推進する。

お互いが支え合い、安心して人が暮らし、 歴史と伝統が息づくまち・博多区

取組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○お互いが支え合い、交流し、健やかに暮らせるまち ○安全で安心して暮らせるまち ○歴史と伝統を生かしたにぎわいのあるまち
---------	--

区の人口・世帯動向

		年少人口 (0～14歳)	生産年齢人口 (15～64歳)	老年人口 (65歳以上)	総数
H12	博多区	22,249 (12.3%)	133,247 (73.8%)	24,958 (13.8%)	180,722
H17		22,015 (11.6%)	138,342 (73.1%)	28,898 (15.3%)	195,711
H22		21,276 (10.4%)	148,740 (72.8%)	34,371 (16.8%)	212,527
H27		21,491 (10.0%)	151,343 (70.4%)	42,134 (19.6%)	228,441
H30		22,263 (9.8%)	158,369 (69.9%)	45,806 (20.2%)	239,905
	全市	203,297 (13.1%)	1,004,726 (64.8%)	341,446 (22.0%)	1,579,450
		高齢者単独世帯数	単独世帯数	全世帯	*H30人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 (資料：国勢調査、福岡県人口移動調査)
H12	6,794 (7.5%)	48,177 (53.1%)	90,776		
H17	8,286 (8.4%)	54,166 (55.0%)	98,573		
H22	11,512 (9.3%)	79,610 (64.2%)	124,070		
H27	15,030 (10.8%)	92,551 (66.8%)	138,629		
	全市	80,032 (10.5%)	379,499 (49.7%)	763,824	

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

お互いが支え合い、交流し、健やかに暮らせるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・単身世帯の割合が指定都市で最も高い福岡市 (H27 国調：49.7%) にあって、博多区は7区で最も高い (同：66.8%)。また、5年間の現住所居住率が46.7% (H27 国調) と転入者が多く、共同住宅 (マンションやアパートなど) に住む世帯割合が87.6% (H27 国調) と都市型の地域であり、地域コミュニティの希薄化が見受けられる。 ・高齢者が増加しており、特に単身高齢者世帯が急増している。(H22 国調：11,512人 → H27 国調：15,030人 5年間で約30%増) ・超高齢社会の到来に備え、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を続けられるための体制 (地域包括ケアシステム) づくりが求められている。 ・転入者も多く核家族化・少子化が進む環境の中で、育児不安を抱えている子育て世帯が増えており、安心して子育てができる環境づくりが求められている。 ・特定健診受診率が7区で最も低く (H30n 速報値：博多区 23.2%、福岡市 26.7%)、医療機関や地域住民と連携した受診率向上や生活習慣病予防・重症化予防による健康寿命の延伸が求められている。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特色を生かした魅力ある地域づくりの支援を継続していくために、地域の様々な組織・機関・団体等との「共創によるコミュニティづくり」を推進し、併せて、住民同士の交流促進や、自治意識の醸成を図る。 ・高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を続けられるための体制 (地域包括ケアシステム) の構築を目指し、医療と介護の連携強化を図るとともに、地域において住民による支え合い助け合いの仕組みづくりを推進する。 ・子育てに関する相談・支援体制を強化し、児童虐待防止の取組みを進める。また、子育て支援コンシェルジュ等の活用により情報収集に努め、タイムリーに情報提供を行うことで保育施設等の待機児童の解消を図る。 ・がん検診等の若い世代からの健康づくりや、生活習慣病重症化予防の取組みを推進する。

安全で安心して暮らせるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時に開設する指定避難所として、博多区には一時避難所 38 箇所、収容避難所 31 箇所がある。突発的な災害や大規模な災害では、市職員や施設職員だけでは迅速に避難所を開設できないことも想定される。このような場合に対応するため、避難所の開設運営は、市職員はもとより、地域住民、自主防災組織、ボランティア等の相互協力により行われることが重要となる。 ・交通事故発生件数及び犯罪認知件数は 7 区で最も多くなっており、事故や犯罪が少ない安全なまちづくりが求められる。 <ul style="list-style-type: none"> *交通事故発生件数(H30)：2,044 件（前年比 322 件減） *犯罪認知件数(H30)：3,305 件（前年比 136 件減） ・自転車の放置台数が 7 区で最も多く、博多駅周辺や中洲地区に多く見られる。 <ul style="list-style-type: none"> *自転車の放置率(H30.10)：2.6%（前年同月比 0.8ポイント減） ・生活道路について、損傷が激しい箇所数は 7 区で最多となっており、博多区に約 4 割が集中していることから、計画的な維持修繕が必要である。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における自主防災活動の活性化を図るため、博多消防署と連携した防災訓練、地域の防災リーダーを対象とした防災研修や避難所運営をテーマとする校(地)区防災研修会などを実施する。 ・博多警察署、市民局と連携し地域の防犯リーダーに対する防犯研修会、防犯教室の開催、交通安全教室の開催や地域への物資支援、情報提供など地域の防犯活動の支援、交通安全思想の普及を行う。 ・路面シート（自転車放置禁止区域）の貼付、歩行空間の整備や交通安全施設の整備など、安全で快適な生活基盤の整備を実施する。 ・博多駅周辺や夜間の中洲地区において自転車利用者への指導・啓発や放置自転車の即日撤去により、放置自転車を減少させる。また、既設駐輪場の利便性向上や新たな駐輪場の整備を進める。 ・「福岡市生活道路アセットマネジメント基本方針」（H26.3 策定）に基づき、道路施設の点検・修繕を計画的に行うことで、施設の延命化を図るとともに、費用対効果の高い施設の維持・管理に取り組む。

歴史と伝統を生かしたにぎわいのあるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・寺社や名所旧跡、伝統ある祭り、伝統工芸など優れた歴史文化資源が多数存在する博多部において、これらを生かした事業に取り組み、その魅力を大きく高めてきた。また、九州新幹線全線開通以降、H28 の KITTE 博多、JRJP 博多ビルに至る一連の再開発や、エリアマネジメント団体による賑わいの創出などにより、来訪者が大きく増加している。今後も、地域と連携し、回遊性の向上や歴史文化資源の魅力の発信力強化を図っていく必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> *H30n 博多ガイドの会案内人数 <ul style="list-style-type: none"> 定点ガイド 6,855 人、派遣ガイド 796 人、地域密着型企画ガイド 2,297 人 *博多旧市街ライトアップウォーク延べ入場者数の推移 <ul style="list-style-type: none"> H25：91,101 人、H26：124,521 人、H27：116,214 人、H28：113,610 人 H29：120,724 人、H30：124,853 人
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史や伝統文化を生かした博多旧市街ライトアップウォークの開催や、歴史的景観と調和の取れた道路整備など博多旧市街プロジェクトを推進し、集客力の向上や回遊性の向上を図る。 ・博多ガイドの会によるまち歩き事業の充実や、博多部の情報発信を行うなど、地域・企業・行政が連携し魅力の向上や地域の活性化に取り組む。

人が集い、人が輝き、人がやさしいまち「中央区」
 ～にぎわい・元気・安心がつながるまちをめざして～

- 取組みの方向性
- 自然、歴史、地域の魅力を生かした、にぎわいのあるまち
 - 思いやりの心で人がつながり、元気に暮らせるまち
 - 誰もが安心して暮らせるまち

区の人口・世帯動向

		年少人口（0～14歳）	生産年齢人口（15～64歳）	老年人口（65歳以上）	総数
H12	中央区	16,380 (10.9%)	115,013 (76.2%)	19,478 (12.9%)	151,602
H17		17,043 (10.5%)	122,962 (75.4%)	22,974 (14.1%)	167,100
H22		17,562 (10.1%)	127,849 (73.8%)	27,724 (16.0%)	178,429
H27		19,531 (10.5%)	133,279 (71.5%)	33,581 (18.0%)	192,688
H30		19,923 (10.4%)	135,424 (70.4%)	36,932 (19.2%)	198,563
全市		203,297 (13.1%)	1,004,726 (64.8%)	341,446 (22.0%)	1,579,450
		高齢者単独世帯数	単独世帯数	全世帯	*H30人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 (資料：国勢調査，福岡県人口移動調査)
H12	5,683 (6.9%)	47,521 (57.6%)	82,522		
H17	6,848 (7.4%)	54,284 (59.0%)	91,929		
H22	9,473 (8.9%)	67,499 (63.2%)	106,825		
H27	11,893 (10.2%)	73,677 (63.5%)	116,063		
全市		80,032 (10.5%)	379,499 (49.7%)	763,824	

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

自然、歴史、地域の魅力を生かした、にぎわいのあるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡市における入込観光客数は、H23(1,678万人)からH29(2,134万人)の6年間で456万人増加しているが、そのうち約62%は日帰り客であるため、都心部の魅力を生かした回遊性の向上を図る必要がある。また、水上公園のオープンや旧大名小学校跡地活用事業など天神ビッグバンが進行中であり、こうした動きを踏まえ、今後も天神地区の持続的発展に向けた取り組みが必要である。 ・地域のまちづくりの継続支援とともに、地域特性を生かした誰もが魅力を感じて楽しく回遊できる「おもてなし」の道づくりが必要である。 ・H29.10に九州大学六本松キャンパス跡地に住宅や商業施設、福岡市科学館がオープンし、中央区の新たなにぎわいの核となっている。 ・セントラルパーク構想の動きを踏まえ、福岡城跡や鴻臚館跡等の歴史・文化資源について、観光資源としての魅力を向上させる必要がある。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・「We Love 天神協議会」との共働による、まちなにぎわい創出や魅力向上を図る。 ・地域の個性を活かしたまちづくりを進めるために、地域のまちづくり団体等の活動を支援するとともに、魅力ある道路整備の推進を図る。 ・福岡城跡や舞鶴公園の魅力を観光資源として活用し、福岡城さくらまつり、福岡城・鴻臚館まつりの充実を図るとともに、スマートフォンアプリを活用する等幅広い層の地域住民や来街者に歴史・文化資源の魅力をPRしていく。

思いやりの心で人がつながり、元気に暮らせるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・転出入者が多く、地域活動の担い手が不足・固定化の傾向が見られる。 ・区の高齢化率は約 19.2%（H30.10）であり、高齢者単独世帯は 10.2%（H27）となっており、上記「区の人口・世帯動向」からも増加傾向にあるため、高齢者等を地域で支える仕組みの構築が急務であり、健康維持や日常からの支援体制の確立が必要。 ・転出入者が多く、孤立しがちな子育て家庭の負担感・不安感の解消を図るために、地域での子どもの見守りを充実させ、安心して子どもを生み育てることができる環境づくりが必要。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館じょいんとプロジェクト（公民館とNPO等が共働で実施する事業）や公民館フェスタ、企業や専門学校等の地域活動への参加促進、地域デビュー応援事業等により、顔の見える関係づくりを進めるとともに、新たな担い手の発掘を支援する。 ・住まい、医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供されるシステムづくりを推進。 ・アラ還世代（55～69歳）や若い世代（20～30歳代）の健康に対する啓発活動の実施とともに、介護予防の拠点づくり事業（よかトレ実践ステーション創出）のさらなる推進。 ・母子何でも相談、安心子育て応援セミナー等の実施や子育て応援ホームページによる適切な情報発信により、子育て支援の充実を図る。

誰もが安心して暮らせるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・警固断層を震源とした大規模地震や集中豪雨等に対する自助・共助の自主防災力のさらなる向上が必要である。 ・H30における中央区の街頭犯罪件数は、減少傾向にあるものの1,316件と高い水準となっているため、地域の防犯意識の高揚や地域が主体的に行うパトロール活動を促進し、犯罪が発生しにくい環境づくりの促進が必要。 ・放置自転車対策として日曜・祝日や夜間19時以降の撤去についても実施しているが、対策の手を緩めると直ぐに放置自転車が増加する傾向にある。 ・路上駐輪機は暫定施設であり、路外駐輪場の整備と併せて一部撤去などを行う必要がある。路上駐輪機については、民間活力を導入して更新・整備を図る必要がある。 ・食中毒の危険性がある食品の喫食や美容施術のトラブルが見られ、消費者側に正しい知識が十分に浸透していない状況にある。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における防災・防犯等に関する自主的取り組みをより活発にするため、安全安心をテーマにした参加体験型イベント「中央区安全・安心フェスタ」を地域や企業などと連携し開催するとともに、地域主体の避難所運営の体制づくりの支援や、避難所開設・運営訓練を実施する。 ・各校区・地区住民、企業、区役所、警察が連携し、各校区・地区において提起される問題や課題の解決に向けた取り組みを実施し、犯罪のない環境づくりを推進。 ・道路利用者の安全で快適な通行空間を確保するため、放置自転車対策を継続して実施していくとともに、放置自転車対策業務の包括的民間委託など、より効果的、効率的な業務手法について検討を行い、人と自転車が共生できるまちづくりを推進していく。 ・民設民営による路上駐輪機の更新・整備を推進していく。 ・食と美容の安全・安心プロモーションを活用した市民啓発を推進。

<p>いきいき南区 暮らしのまち ～身近な自然とふれあい みんながつながり支え合う～</p>	
<p>取組みの方向性</p>	<p>○人のつながりや交流が大切にされ、地域で支え合い・助け合う暮らしやすいまち</p> <p>○みんなにやさしい、安全で安心して住み続けられるまち</p> <p>○那珂川やため池、油山などの自然がさらに身近に感じられるうるおいとやすらぎのあるまち</p> <p>○大学や隣接地域との連携・交流や文化活動などが盛んで、活気あふれるまち</p>

区の人口・世帯動向						
		年少人口 (0～14歳)	生産年齢人口 (15～64歳)	老年人口 (65歳以上)	総数	
H12	南区	35,937 (14.8%)	174,163 (71.7%)	32,830 (13.5%)	243,039	
H17		34,007 (13.8%)	173,480 (70.6%)	38,204 (15.5%)	246,367	
H22		33,528 (13.6%)	167,308 (68.0%)	45,186 (18.4%)	247,096	
H27		34,626 (13.7%)	163,562 (64.5%)	55,430 (21.9%)	255,797	
H30	全市	35,680 (13.7%)	164,082 (63.1%)	60,178 (23.2%)	262,113	
		203,297 (13.1%)	1,004,726 (64.8%)	341,446 (22.0%)	1,579,450	
		高齢者単独世帯数	単独世帯数	全世帯	<small>*H30人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 (資料：国勢調査、福岡県人口移動調査)</small>	
H12	南区	6,613 (6.3%)	42,016 (40.0%)	104,999		
H17		7,514 (6.9%)	43,813 (40.3%)	108,734		
H22		9,892 (8.8%)	46,220 (41.2%)	112,306		
H27		13,798 (11.5%)	51,553 (43.1%)	119,487		
	全市	80,032 (10.5%)	379,499 (49.7%)	763,824		

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

人のつながりや交流が大切にされ、地域で支え合い・助け合う暮らしやすいまち	
<p>現状と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化の中で、母親が子育てに不安・負担を感じて孤立化することがないように、安心して生み育てられるための施策や、子どもが健やかに育つための施策が求められている。 ・南区は、高齢化率が20%を超える校区が25校区中18校区となっており、高齢者単独世帯数の割合が11.5% (H27) と7区中最も高い。高齢者が心身ともに健康で社会と繋がりを持って暮らせるよう支援する施策がますます重要である。 ・高齢者がいつまでも住み慣れた地域で暮らしていけるよう、医療や介護、生活支援などが一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築が重要である。 ・地域活動の担い手不足が顕在化しており、地域のネットワークや多様な主体が持つ資源を、地域課題の解決や地域の活性化につなげる共助の取り組みが必要となっている。
<p>今後</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新米ママ向けの親子セミナー等や、発達が気になる子どもと親が集えるサロンの開設など、育児不安を軽減し、孤立化や虐待を予防するとともに、子育て情報の提供や、子どもの正しい生活リズムの普及啓発などに取り組む。 ・健寿社会の実現に向け、地域、専門職等の多様な主体による「よかトレ実践ステーションの創出」などの健康づくり・介護予防の取り組みを進める。また、高齢者の見守りなど生活支援の充実や、在宅医療の推進、認知症に係る施策に取り組む。 ・地域活動の担い手不足、集う場の不足、移動手段等の課題解決のため、地域と医療・介護事業所等のネットワークが連携した取り組みを進める。 ・地域における具体的な課題の把握に努めるとともに、企業や大学が持つ、人・モノ・専門知識等の資源を活かし、地域課題の解決や地域活性化につなげる。

みんなにやさしい、安全で安心して住み続けられるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・南区居住者の約23%が65歳以上の高齢者であり、外国人もこの10年間で約3.7倍に増えているため、災害時における支援の仕組み構築が課題である。 ・南区では、刑法犯認知件数（H29中2,011件→H30中1,628件）は年々減少しているものの、犯罪の少なさに満足している住民の割合はH29n 39.3%→H30n 34.5%（平成30年度市政に関する意識調査:行政区別(南区)）にとどまっており、より一層の地域防犯力の向上が求められている。また、H30中の自転車による交通事故発生件数は333件（南区）で県下ワースト2位となっており、自転車を中心とした交通安全啓発活動が急務である。 ・H30.12に入管法が改正され、居住外国人のさらなる増加が見込まれるなか、区役所手続きにおいては通訳の導入検討など居住外国人に対する総合的な生活サポート体制の推進が求められる。また、地域においては、地域住民と居住外国人の相互理解がまだまだ進んでおらず、早急な対策が必要である。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時における高齢者や居住外国人などの避難行動要支援者の安全確保のため、地域と共働で防災意識の醸成、組織や従事者の育成、訓練などに取り組む。また、ワークショップやセミナーなどを通じて先進的な地域の取り組み事例を紹介し、校区間の情報共有を図り、全体の意識向上につなげる。また、居住外国人や高校生などを、災害時に支える側の人材として育成する。 ・警察などとさらなる連携強化を図り、地域ニーズに合わせた地域防犯活動の支援や、防犯パトロール、性犯罪防止活動、交通安全運動などの啓発活動に取り組む。 ・日本語学校等の留学生等を対象に、「ごみの分別」「自転車の交通マナー」「税」などについて、一体的かつ効率的な出前講座を実施するなど総合的な生活サポート体制を推進するとともに、地域住民と居住外国人の相互理解を深める交流事業を実施する。

那珂川やため池、油山などの自然がさらに身近に感じられるうるおいとやすらぎのあるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・水辺や緑などの自然の魅力を発信し、住民が自然に触れる機会を創出することで、地域の魅力再発見につなげる必要がある。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・みなみくおでかけマップや南区カレンダーを活用し、住民に地域の特色や自然環境の豊かさについて発信するとともに、鴻巣山での間伐体験ワークショップなどのイベントを行うことで、区民がふるさとに愛着を持てるまちづくりを推進する。

大学や隣接地域との連携・交流や文化活動などが盛んで、活気あふれるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・区及び周辺部の7つの大学と包括連携協定（H28.12）を締結し、合同イベントとして「南区こども大学」をH29nから実施している。また、大学の先生が地域に出向いて行う「南区出前講座(大学版)」を、H16から実施している。今後、大学と地域の交流・連携事業を推進することが必要である。（H30：9件） <ul style="list-style-type: none"> *「南区こども大学2018」（24講座実施、来場者数714人） *「南区出前講座(大学版)」（45講座実施、参加者数1,195人） ・西鉄天神大牟田線から遠い区西南部地域では、公共交通の利便性向上など、地域の活性化に向けた取り組みが求められている。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・「南区こども大学」や「南区出前講座(大学版)」などの実施により、地域に開かれた魅力ある大学づくりを進めるとともに、大学・学生が積極的に地域活動に参画するよう支援し、大学を活かした共創のまちづくりを推進する。 ・区西南部地域を中心としたバス交通の円滑化を図るため、既存バス路線における交差点改良やバスカットの整備に取り組む。 ・地域拠点「長住・花畑地域」における地域ニーズや現状・課題等を整理し、地域特性に応じた活性化策について検討する。 ・桧原桜を活かした桧原桜賞等を実施し、那珂川市との交流事業や、住民が進んで文化活動等に参加できるよう機会を創出する。

<p>豊かな暮らしがあるまち・城南区 ～大学・自然と共生し、地域で支え合う安全で安心なまちづくり～</p>	
<p>取組みの方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○安全で安心して暮らせるまち ○地域で支え合う、ぬくもりのあるまち ○地域と大学が共生するまち ○自然環境を大切にすまち

区の人口・世帯動向						
		年少人口 (0～14歳)	生産年齢人口 (15～64歳)	老年人口 (65歳以上)	総数	
H12	城南区	16,704 (13.3%)	92,827 (73.8%)	16,212 (12.9%)	126,468	
H17		16,281 (12.7%)	92,145 (72.0%)	19,483 (15.2%)	128,663	
H22		16,495 (12.9%)	88,231 (69.1%)	22,940 (18.0%)	128,659	
H27		16,837 (13.0%)	84,258 (65.2%)	28,215 (21.8%)	130,995	
H30		16,821 (12.9%)	82,734 (63.4%)	30,897 (23.7%)	132,133	
全市		203,297 (13.1%)	1,004,726 (64.8%)	341,446 (22.0%)	1,579,450	
		高齢者単独世帯数	単独世帯数	全世帯	*H30人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 (資料：国勢調査、福岡県人口移動調査)	
H12	3,381 (5.7%)	28,349 (47.9%)	59,194			
H17	4,132 (6.8%)	28,615 (47.2%)	60,655			
H22	5,275 (8.5%)	29,678 (47.7%)	62,189			
H27	7,206 (11.2%)	31,533 (48.9%)	64,511			
全市		80,032 (10.5%)	379,499 (49.7%)	763,824		

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

安全で安心して暮らせるまち

<p>現状と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・H30n から地域の防災代表者を集めた城南区自主防災組織連絡会を設立し、防災関係情報の共有や災害対応後の意見交換等を行っている。 また、平成30年7月豪雨を経験したことにより、地域によって防災力及び災害対応力に差はあるものの、地域の自主防災組織が自主的に災害時の連絡体制等の整備を行っており、災害対策への機運が高まっている。 このように、地域自主防災組織の災害に対する危機意識は高まってきているが、避難者となる地域住民の自助・共助の意識が充分でないところも見受けられる。 また、区の防災拠点となりうる福岡大学及び中村学園大学・短期大学部と、学生ボランティアや大学施設の活用、さらには地域、大学、行政の連携による避難所運営等の防災関連の連携をこれまで以上に進めていく必要がある。 ・城南区では全市平均と比べても年少人口の割合が低く、少子化が進んでおり、安心して生み育てられる環境づくりが必要である。
<p>今後</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域自主防災力強化（自助、共助力強化）のため、区内の防災士とのネットワークを構築するとともに、自主防災訓練や地域防災リーダーの養成を通じて避難所開設・運営力の向上及び家庭でできる備蓄の推進を図る。 また、地域独自の避難所運営マニュアルの作成を支援し、地域・施設管理者（大学含む）・行政が一体となった避難所運営の体制整備を前年度に引き続き行うとともに、福岡大学及び中村学園大学・短期大学部と学生の活用及び施設の利用等について、関係部署と連携しながら防災体制強化を図っていく。 ・子育て世帯を対象に、子の月齢に応じた子育て情報やトピックスなどを配信する携帯用メールマガジン「子育てにっこりんメール」において、アンケートにより子育てに関するニーズを把握し、必要な情報を発信するなど、安心して生み育てられる環境づくりを推進する。

地域で支え合う、ぬくもりのあるまち

<p>現状と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・城南区では全市平均を上回る高齢化の進展により、独居や認知症などの高齢者問題への取組みなど、高齢になっても住み慣れたまちで自立した生活を安心して続けられる地域で支え合うまちづくりが求められている。 ・人生100年時代を見据えた、健康づくりの推進、健康寿命延伸の取組みを強化する必要がある。
<p>今後</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・超高齢化社会に対応するため、地域活動を担う人材の育成支援、地域の見守りネットワークの強化など、地域で支え合うまちづくりを推進する。 ・認知症になっても住み慣れた地域で安心して生活できるように、認知症の早期発見、早期支援のために認知症初期集中支援チームの活動を強化する。また、認知症疾患医療センター（福大病院）を中心とした、医療・介護・保険・地域の連携を強化していく。 ・住民の健康寿命の延伸のために、介護予防や健康づくりに取り組む人が増えていくことを目的とした事業を体系的に展開する。介護が必要な状態にならないようにするためには若いころからの健康づくりも重要であるため、65歳未満の青年期・壮年期を対象とした講座「健康長寿へのチャレンジ事業」を実施し、運動のきっかけづくりや運動継続の支援を行う。R1nは新たに民間スポーツ施設などと連携した講座も開催する。また、高齢者に対しては、身近な地域で介護予防のための体操を実践できる場を増やすために、活動の中で介護予防に資する体操を実践している団体を「よかトレ実践ステーション」として認定し、支援していく。 <p>さらに、特定健診の受診率向上を図るとともに、健診結果に応じた保健指導を実施し、生活習慣の改善や重症化予防を目指す。</p>

地域と大学が共生するまち

<p>現状と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・区内にある福岡大学、中村学園大学の学生数は約2万4千人で、区人口の約2割に相当する。区と大学との良好な関係を継続的に向上させていくとともに、大学の高度な教育研究機能や設備、専門的知識を持つ人材などのリソースを地域課題の解決に生かす取組みが必要である。
<p>今後</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・区役所と大学の連携や住民と学生の交流を促進するとともに、地域における活動団体等も含めたネットワークを引き続き維持し、多様な主体が地域課題に取り組む共創によるまちづくりを推進する。

自然環境を大切にすまち

<p>現状と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・区域を貫流する樋井川、区域の南部に位置する油山など、市民自らが自然環境を守り育てる活動を支援し、住みやすい環境づくりに生かすことが必要である。
<p>今後</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・樋井川や油山の地域活動団体等と連携し、身近な自然の良さをPRするなど、区民の環境保全意識の向上を図り、自然環境を大切にすまちづくりを推進する。

ひと・みず・みどりが光り輝く「早良区」 ふれあいと交流のあるまち

取組み
の
方向性

- お互いが支え合い安心して暮らせるまち
- 早良区の特性を生かした魅力あるまち
- 地域の魅力を生かしたまち
 - ◆～活力とにぎわいのあるまち～ 北部
 - ◆～地域の新しい拠点となるまち～ 中部
 - ◆～豊かな自然を生かした市民の憩いのまち～ 南部

区の人口・世帯動向

		年少人口（0～14歳）	生産年齢人口（15～64歳）	老年人口（65歳以上）	総数
H12	早良区	32,337 (15.9%)	145,141 (71.5%)	25,570 (12.6%)	203,656
H17		31,417 (15.0%)	145,996 (69.8%)	31,730 (15.2%)	209,570
H22		31,510 (14.9%)	142,113 (67.4%)	37,234 (17.7%)	211,553
H27		32,653 (15.1%)	137,689 (63.6%)	46,110 (21.3%)	217,877
H30		32,808 (15.1%)	134,505 (61.8%)	50,379 (23.1%)	219,105
	全市	203,297 (13.1%)	1,004,726 (64.8%)	341,446 (22.0%)	1,579,450
		高齢者単独世帯数	単独世帯数	全世帯	*H30人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 (資料：国勢調査、福岡県人口移動調査)
H12	早良区	4,687 (5.8%)	26,881 (33.0%)	81,425	
H17		6,181 (7.1%)	30,195 (34.9%)	86,621	
H22		7,467 (8.3%)	32,128 (35.6%)	90,134	
H27		10,299 (10.8%)	36,104 (37.8%)	95,617	
	全市	80,032 (10.5%)	379,499 (49.7%)	763,824	

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

お互いが支え合い安心して暮らせるまち

現状と
課題

- ・熊本地震や平成30年7月豪雨の教訓から、災害時避難行動要支援者への支援や、各校区における避難所運営など、より実践的な対応の検討が求められている。H30nは6月から災害時避難行動要支援者名簿の更新を行い、11校区で避難所運営訓練を実施した。
- ・核家族化、地域コミュニティにおける、住民同士のつながりの希薄化などの社会状況の変化により、地域において子育て家庭が孤立化している。子育てへの不安感を軽減し、児童虐待、発達障がいなど、支援を要する子どもや家庭をめぐる問題に対応する必要がある。
- ・保健所窓口での母子健康手帳の交付、妊婦との面接を行う中で把握した支援が必要な妊婦について、子育て世代包括支援センターの関係課が連携協力しながら、さらなる支援の充実に努めていく必要がある。
- ・健寿社会の実現に向け、市民の主体的な健康づくりを進めていく必要がある。
- ・健康づくりに役立つレシピを公募し作成した「サザエさん通り食育レシピ集」を有効に活用し、食育を推進していく必要がある。
- ・早良区のH30n特定健診受診率は、過去最高の28.7%であるが、国が設定した目標値(60%)は達成していないため、受診率向上の啓発活動を強化する必要がある。
- ・超高齢社会の到来に備え、地域包括ケアの推進が必要である。H29nから取り組んでいる、公民館・地域と専門職の共創による「介護は突然やってくる！親子で考える介護の備え講座」を9公民館で開催した。また、「第2回早良いきいきサミット」を開催し、高齢者を地域で支える仕組みづくりにおける公民館の役割の認識は進展しているが、市民に向けた更なる介護予防や在宅医療・介護に関する普及啓発が求められている。
- ・団塊世代の大量退職期の到来を契機に、定年退職後に必要な情報提供を行うとともに、地域活動に参加しやすいきっかけづくりにより、地域活動の担い手不足解消などへつなげていくことが求められている。

今後	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の要支援者への働きかけや名簿の整備及び、実践的かつ子育て世帯や女性の視点等に着眼した避難所運営などの研修及び訓練を各校区で開催する。 ・発達が気になる子どもと、その保護者のための子育てサロン「もちもち」の開催や、子育て情報誌・子育て情報マップの配布、「さわらっ子育て応援ホームページ」での情報発信などにより、子育て世代の不安を軽減するとともに、子育てを応援する。また、児童虐待防止の研修や、子どもが様々な暴力から自分の心とからだを守る「暴力防止プログラム（CAP）」を実施し、児童虐待防止のための啓発を行う。 ・子育て世代包括支援センター関係各課の連携をより強固に行い、妊娠期から出産・子育て期にわたる切れ目のない支援の充実を図る。 ・早良区南部地域の自然や食の魅力と医療・介護ネットワーク等を活用したツーリズムを企画・実施し、早良区南部地域の魅力発信と市民の主体的な健康づくりの機運醸成を図る。 ・「サザエさん通り食育レシピ集」のメニューを飲食店で提供してもらうことにより食育に関する認知度を高め、より効果的に食育を推進していく。 ・特定健診の受診率向上のため、区役所関係課のプロジェクトチームで協力しながら受診率向上に向けた活動を引き続き行っていく。 ・「介護は突然やってくる！親子で考える介護の備え講座」を6公民館で開催し、小学校区レベルで地域包括ケアに取り組む機運を醸成する。また、講座だけでなく、あらゆる機会に、更なる介護予防や在宅医療・介護に関する普及啓発を実施する。 ・大学や歯科医師会との共創により「口腔ケア」を通じて介護予防の取組みを推進する。 ・定年後の新たなステージの応援の一環として「シニアのための智恵袋」を活用した地域活動への関心を高める情報提供を行うなど、地域の担い手確保に取り組む。
----	--

早良区の特性を生かした魅力あるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・早良区を代表する脊振山系や室見川などの豊かな自然を保全し、次世代へ引き継いでいく必要がある。 ・H24.5に地域の要望のもと誕生した「サザエさん通り」を生かしたまちづくりや、南部の“実りの秋”の魅力発信をする「さわらの秋」など、早良区の魅力を生かした地域活性化に取り組む必要がある。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・脊振クリーンアップ登山や室見川水系一斉清掃などの活動を通し、市民の環境保全意識の向上を図る。 ・「サザエさん通り」の認知度向上やさらなる地域活性化のため、H25nに策定した構想に基づき、ハード・ソフト両面からの施策の充実や広報の強化を官民共働で行う。 ・「さわらの秋」事業をはじめとして、早良区の魅力について、区内外の住民への認知度を高めるための広報戦略や地域資源のブランド化に取り組む。

地域の魅力を生かしたまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・早良区南部地域は豊かな自然や産業、歴史などの地域資源に恵まれる一方、少子高齢化や人口減少など、地域の活力低下が懸念されており、地域や行政が共創で南部地域の魅力を生かしたまちづくりを推進する必要がある。 ・早良区中南部地域における、区レベルの行政サービスを補完する施設として、R3に開館予定である早良南地域交流センターへの交通アクセスについて関係局と検討する必要がある。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・NPOとの共働事業提案制度を活用し、早良南部地域における交流人口拡大に向けた取組みを地域内外の市民や団体・企業と共に検討し、地域特性に応じた推進手法で実践していく。 ・地域、団体、行政等が一体となった早良南部地域の課題解決に向けた取組みである「早良みなみ塾」を通し、自治協間の連携強化、早良南部コミュニティの一体化、人材・資源の活用促進を図るとともに、地域の魅力を生かした地域主体の取組みを支援する。 ・中南部地域においては、早良南地域交流センターの整備進捗に応じ、地元への適切な情報提供や意見調整を行う。

自然と大学の知を生かし、安全で安心して、生き生きと暮らせるまち・西区
 ～「自然・市民・大学」の3つの宝を磨きあげる～

取組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○自然を生かし、環境にやさしいまち ○にぎわいと楽しさがあり、地域が支え合う、生き生きと暮らせるまち ○大学の知と人材を取り込んだ創造性に富むまち ○子どもから高齢者まで、安全で安心して暮らせるまち
---------	--

区の人口・世帯動向

		年少人口（0～14歳）	生産年齢人口（15～64歳）	老年人口（65歳以上）	総数
H12	西区	26,932 (16.2%)	115,406 (69.3%)	24,275 (14.6%)	166,676
H17		28,347 (15.9%)	120,391 (67.3%)	30,026 (16.8%)	179,387
H22		30,181 (15.6%)	126,224 (65.4%)	36,540 (18.9%)	193,280
H27		31,405 (15.3%)	129,439 (63.0%)	44,772 (21.8%)	206,868
H30		31,409 (14.9%)	130,654 (62.0%)	48,792 (23.1%)	212,106
全市		203,297 (13.1%)	1,004,726 (64.8%)	341,446 (22.0%)	1,579,450
		高齢者単独世帯数	単独世帯数	全世帯	*H30人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 (資料：国勢調査、福岡県人口移動調査)
H12	西区	3,413 (5.5%)	16,385 (26.6%)	61,579	
H17		4,375 (6.4%)	19,213 (28.1%)	68,254	
H22		5,723 (7.3%)	25,157 (32.3%)	77,880	
H27		8,216 (9.3%)	32,347 (36.8%)	88,011	
全市		80,032 (10.5%)	379,499 (49.7%)	763,824	

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

自然を生かし、環境にやさしいまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然をもつ西区では、都市と自然の近接という特性を活かしたまちづくりが必要。 ・地域での環境活動の活発化には、活動のリーダー的役割を担う人材が不可欠であるが、その人材が不足。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成講座による人材の発掘・育成を図るとともに、活動のノウハウ、情報提供等の支援などにより、自立した環境活動を促進。

にぎわいと楽しさがあり、地域が支え合う、生き生きと暮らせるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・校区や地域単位での夏祭りや地域カフェ等の開催、また地域デビュー事業等によって、地域主体の取り組みが増えているものの、市街化調整区域では、人口の減少や少子高齢化、公共交通機関の減少などの問題が顕著な地域もある。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・市街化調整区域のまちづくり活動支援や関係局と連携した協議を継続的に行うとともに、地域だけで実現・実行が困難なまちづくりの取組みについては、地域主導を維持しつつ、支援・助言を実施。

大学の知と人材を取り込んだ創造性に富むまち

<p>現状と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と九州大学が直接、連携・交流できる仕組みや関係性が少しずつ構築されてきているが、さらに大学の知識と多彩な人材を地域の人材育成やまちづくりに活かすことが必要。 *九州大学と地域との連携・交流事業数 H30n：57 事業
<p>今後</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館や自治協議会に、地域との交流を希望する九州大学の学生団体の情報を提供し、大学生と地域との自主的な交流事業開催を促進。 ・九州大学及び学生と地域とをつなぎ、地域の活性化に向けたまちづくりの取り組みを支援していく。

子どもから高齢者まで、安全で安心して暮らせるまち

<p>現状と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全校区に自主防災組織が立ち上げられ、校区・地域において自主的な防災訓練が実施されているが、それらの組織が災害時、実際に機能できる体制となるための一つとして、校区防災計画の改訂が必要であるが、校区によって温度差がある。 ・H30における西区の犯罪認知件数は、1,581件と昨年に比べ36件の増となっている。特に、人口増加の著しい地域では、自転車盗などの窃盗犯が増加傾向にある。そのため、地域の防犯意識の高揚や地域が主体的に行うパトロール活動など、犯罪が発生しにくい環境づくりの促進が必要である。
<p>今後</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き防災研修会等で校区防災計画の改訂を呼びかけていくとともに、R1nからは「校区自主防災組織連絡会」を新たに設立し、行政からの防災情報、他校区での取り組み等を情報共有することにより、西区全体の地域防災力の向上に努めていく。 ・地域住民の安全で安心して暮らせるまちづくりを実現していくために、引き続き地域・警察・行政で情報共有を行うとともに、地域への防犯活動物資配布・青色回転灯パトロールカーの補助等の支援やニセ電話詐欺防止・街頭犯罪防止等の啓発活動に取り組んでいく。